

株式会社 TBS テレビ

TBSでは、「出前授業」や、夏休み・春休みのプログラム、WEBサイトなどを通して、青少年を対象としたメディアリテラシー関連活動をおこなっている。



「ニュースは選択されたもの」を体験する出前授業

社員が個人的におこなっていた出前授業を、平成 18 年に事務局を設置以来、会社の教育 CSR 活動の一環として出前授業に取り組んでいる。平成 21 年度には 41 校を対象として出前授業をおこなった。

- **対象** : 放送エリア内の小学校（5年生以上）、中学校、高校
- **講師** : アナウンサー、プロデューサー、記者、カメラマン、技術 等
- **授業内容** : 「オリジナルプログラム」＋「学校の要望」でカスタマイズ

出前授業は、TBSが構築してきたさまざまなコンテンツをベースに、学校の要望を取り入れてプログラムをカスタマイズしている。放送体験を実施するときは、必要な放送機材（映像のスイッチング等が可能なセット）をTBSが用意する。



〔オリジナルプログラム（約 90 分）〕

・「ニュース番組ができるまで」について（20 分）

TBS 報道局に密着し、社会部の記者が取材したネタがニュースとして放送されるまでを追ったVTRを視聴しながら、TBSスタッフが説明。

・グループワーク「編集長になってみよう」（30 分）

6つのニュース（社会、政治、経済、国際、季節の話題など）から、児童・生徒が放送したいニュースを3つ選び順番をつける。何故それを選んだか、なぜその順番にしたのかを考え、発表する。

・放送体験「ニュースを放送してみよう」（30 分）

体育館などに放送機材を設置し、児童・生徒が、カメラ、アナウンサー、スイッチャー、フロアディレクターなどの役割に分かれて体験。



・質疑応答（10 分）



TBS出前授業事務局から一言

～ ニュースは選択されたもの ～

ニュースは、さまざまな判断基準で選択されており、放送局によって、放送するニュースの内容や順番は異なります。テレビやラジオでは、すべてのニュースを流せるのではなく、放送されないニュースもあります。しかし、放送されないからといって「重要でない」ということではありません。それを子どもたちに考えてもらいたいと思い、出前授業でグループワークをおこなっています。

番組制作体験やテレビの編成の解説などがある夏休み・春休みのプログラム

夏休みや春休みに、テレビ番組の制作の仕組みを知ったり、実際に体験できるプログラムなどを実施している。平成 22 年夏は、ラジオ番組制作体験やアナウンサー教室などを実施した。



テレビ局の仕事を解説した WEB サイト

WEB サイト「知っちゃお！TBS」で、テレビ局の仕事を紹介している。

株式会社テレビ朝日

テレビ朝日では、学校への「出前授業」・自治体に協力して行う「出前講座」などを通して、青少年を対象としたメディアリテラシー関連活動をおこなっている。



「作る人によって異なるニュースになる」を知る出前講座

自治体と連携し、図書館や生涯学習施設などで、出前講座をおこなっている。活動内容や対象はさまざまだが、体験型の活動を重視し、平成 22 年には、小学校高学年の親子を対象とした「親子でニュースをつくろう！」や、小学校低学年によるニュースづくりなどをおこなった。

〔親子でニュースをつくろう！〕

- 対象 : 小学校高学年と保護者 14 組 29 名
- 講師 : お客様フロント部スタッフ（番組制作経験者）
- 活動内容 :

1 時間目 ニュースが出来るまで

- ・どきどきわくわくキャスター体験：本物のニュース原稿を全員で読み、希望者がカメラで映してニュース番組を体験。

2 時間目 自分ニュースづくり

- ・ワークシート「思い出シートづくり」を使い、自分の思い出をニュース原稿にする（原稿 3 枚、40 秒にまとめる）
- ・ニュースのタイトルを作成し、グループ内で発表。
- ・全体発表会：「おとなニュース」と「こどもニュース」のグループ代表が集まり、カメラで映しながら、それぞれがニュース原稿を読む。



テレビ朝日出前講座事務局から一言

「親子でニュースをつくろう！」では、同じ題材でも、子どもと保護者では違ったニュースができました。親子がお互いを発見するきっかけとなり、コミュニケーションを深めてもらうと同時に、同じテーマでも作る人により異なるニュースになることを知ってもらえればと思います。

「ニュースを選択する規準」を考える出前授業

テレビ局のできる社会貢献として、平成 16 年度から総合・情報学習支援を目的とした出前授業を開始。平成 23 年 3 月までに 539 回の出前授業をおこなった。

- 対象 : 放送エリア内（一都・六県）の小学校～大学
- 講師 : 報道局勤務者（経験者を含む）、社内各部署の社員・スタッフ 等
- 時間数 : 2 コマでおこなうことが多い。
- 活動内容 : 「学校の希望」により活動内容を決定

学校の希望に沿って、テレビ朝日が作成した VTR やワークシート、あるいは講師各自が用意した資料を用いて授業をおこなっている。

- ・VTR：小学生向け「ニュースができるまで」、中学生向け「テレビ局の仕事」、CG「ニュースができるまで」
- ・ワークシート：「ニュースができるまで」

小学校 5 年生で学習する「ニュースができるまで」に関する授業では、VTR の視聴とあわせて、ニュースが放送される順番の決め方について講師が説明しニュースを選択する基準を子供たち自身に考えてもらったり、実際のニュースで使われた原稿を子どもたちに読んでもらうなどの活動をおこなっている。ニュース制作体験をすることもある。



株式会社フジテレビジョン

フジテレビでは、「出前授業」を通して、青少年を対象としたメディアリテラシー関連活動をおこなっている。

「レポートとは何か」などを考えるアナウンサーによる出前授業

アナウンサーが学校などを取材したときに、たびたび「学校で授業をしてもらえないか」との依頼があったため、社内で「あなせん（アナウンサーの先生）」としてプロジェクト化を図り、平成 17 年から出前授業に取り組んでいる。

- 出前授業の対象：港区と品川区の公立小学校
- 講師：アナウンサー（約 20 名のアナウンサーが担当）
- 時間数：45 分
- 活動内容：「講座メニュー」から学校が選択



アナウンサーが作成した出前授業向けテキスト



出前授業のために、「レポート実践講座」や「ニュース・天気予報講座」などの 7 つの講座を設けている。講座を学校に選択してもらい、それに学校の希望をプラスして出前授業をおこなっている。

各講座は、子どもたちに考えてもらうことを重視しており、例えば、「レポート実践講座」では、「レポートとは何か」を考えてもらう。「リポーターが味についてレポートをするときは、五感で感じたことを言葉で表現している」ということを説明し、ワークシートで「イチゴはどんな味か」を子どもたちに考えてもらったうえで、実際にレポート体験をする活動をおこなっている。

株式会社新潟放送

新潟放送では、「出前授業」や「社内見学」などを通して、青少年を対象としたメディアリテラシー関連活動をおこなっている。

「テレビがどう作られているか」を知る出前授業



30 年前から小中学校を対象として、アナウンサーによる出前授業に取り組んでいるが、平成 21 年には、民間教育放送協会からの委託により、番組制作担当やカメラマンが、新潟市内の小学校でメディアリテラシー授業をおこなった。メディアリテラシー授業では、番組出演者を招き「取材されたときの気持ち」を聞いたり、テレビの画面サイズのフレームを使い、カメラが切り取っている映像の体験などを 45 分でおこなった。

アナウンサーによる出前授業では、「テレビやラジオの情報と生活のかかわり」などを子どもたちに考えてもらっている。



「ラジオとテレビの情報の伝え方の違い」も紹介する社内見学

番組の制作現場を見て、放送への関心を高めてもらうため、主に小学生を対象として社内見学をおこなっている。

見学内容は人数などにより変わるが、放送中のスタジオを見学することや、見学者が番組に出演することもある。ラジオスタジオの見学をおこなう際は、ラジオとテレビの情報の伝え方の違いや、中越地震などの災害時のラジオの役割などを、見学者に説明している。



株式会社テレビ信州

テレビ信州では、「情報学習プログラム」や「出前授業」、「社内見学」などを通して、青少年を対象としたメディアリテラシー関連活動をおこなっている。



「記者会見とは何か」を考える情報学習プログラム

平成 22 年より、子どもたちが記者会見ゲームを体験しながら「記者会見とは何か」を考える「情報学習プログラム」を開始した。

- **対象** : 小学校高学年
- **講師** : アナウンサー、フルネットセンタースタッフ* 等
*フルネットセンター：テレビ信州が運営している施設で、スタッフはテレビ信州出身者。

● **活動内容** : 記者会見ゲーム＋クラスCM収録

● **時間数** : 60 分

＜記者会見ゲーム＞

1. 情報発信やインターネットTVについての説明
2. ビデオ「ニュースが出来るまで」を鑑賞（約3分）
3. 「記者会見ゲーム」のルール説明（約1分）
4. 児童より「記録係」2名選出
5. シンキングタイム（30秒～1分）
6. 「記者会見ゲーム」（3分）等

＜クラスCM収録＞

1. 収録時の注意事項について説明
2. リハーサル
3. テイク1、2収録
4. プレビュー（2回収録分を全員で視聴しDVD化するものを選択）
5. スタジオカメラの操作体験、質疑応答



情報学習プログラムの企画者からの一言

記者会見ゲームでは、アナウンサーが、子ども記者から質問を受ける役となっています。子どもたちには「いかに情報を引き出し、いかに情報を伝えるか」を体験し、テレビで見る記者会見とは何かについて考えてもらえたらと思います。

番組制作で放送について考える「出前授業」

平成 10 年より、中学生～大学生の番組制作を支援する出前授業を、送り手と受け手で共にメディアリテラシーを学ぶためにおこなっている。平成 22 年は、高校と大学で実施した。

〔高校の出前授業〕

- **講師** : ニュースキャスター、報道記者、カメラマン 等
- **時間数** : 3 時間/回×3, 4 回を、3 ヶ月間で実施。
- **活動内容** : インタビューの仕方、取材のイロハ、撮影の基本など



番組に出演して出演者の気持ちを考える「社内見学」

平成 7 年から、メディアリテラシー活動として社内見学を開始した。

- **見学内容** : 報道部、サブ、スタジオを見学した後、番組に出演する。



社内見学企画者から一言

出演者は、キャスターなどからの質問に対し、自分の言いたいことを言えなかったり、反対に、サービスの気持ちにとらわれ、自分が意図していなかったことを生番組で話してしまうことがあります。テレビ番組で専門家が話すコメントで、物事の印象が作られてしまうことがあります。専門家もこのような状況で話をしており、その話を受けて送り手は番組を作っています。そして、番組に出演するときは、誰にでもそのようなことが起きる可能性があります。これらについて、子どもたちに考えてもらえたらと思い、見学者に番組に出演してもらっています。

東海ラジオ放送株式会社

東海ラジオでは、「出前授業」や「番組制作・アナウンス教室」を通して、青少年を対象としたメディアリテラシー関連活動をおこなっている。



「同じテーマでも表現方法が異なる」ことを体験する出前授業

東海ラジオが主催する「高校ラジオ作品コンクール」参加校で、番組制作やアナウンスの出前授業をおこなってきたが、平成 21 年と 22 年は、民放ラジオ統一キャンペーンの一環で、小学校へのお出前授業をおこなった。



〔小学校での出前授業〕

子どもたちは、波の音やセミの声などの効果音の作り方を体験した後、効果音係やキャストを担当し、7～8 分のミニドラマを制作した。平成 22 年は、「常夏の学校」をテーマとしてドラマを制作したが、同じテーマでも、お互いのイメージは異なり表現方法も異なることを体験した。

●対象：小学校 5 年生

●講師：アナウンサー、ディレクター、技術

●時間数：2～3時間



「番組制作・アナウンス教室」

「高校ラジオ作品コンクール」参加校を対象に、毎年、東海ラジオで、番組制作やアナウンス教室を開催し、番組制作の体験などをおこなっている。

●講師：ディレクター、アナウンサー

●時間数：4 時間（1 日で実施）

読売テレビ放送株式会社

読売テレビでは、「番組作り講座」やWEBサイトなどを通して、青少年を対象としたメディアリテラシー関連活動をおこなっている。



「テレビ番組とは何か」を考える番組作り講座



神戸連続児童殺傷事件がおきた際、テレビなどのメディアと青少年の関係に注目が高まったため、「放送局として何か青少年に役立ちたい」と考え、メディアリテラシー活動を開始した。平成 12 年より、教員や、小・中・高校生を対象とした「番組作り講座」をおこなってきたが、平成 20 年より、番組作りに関するメディアリテラシーをさらに広めるために、大学との連携講座を開始した。

〔大学との連携講座〕

●時間数：8 時間×5 日間

●講師：報道カメラマンなどの報道番組制作経験者

●活動内容：3 分間の番組制作＋講義（番組制作に関する講義を受け、学生が 3 分間の番組を制作）

- ・概論「テレビ番組とは」（「テレビ番組の構成要素」、「映像の表現・編集」、「現場視察」）
- ・習作作成（テーマに沿った撮影、取材、プレビュー、構成）
- ・編集実技
- ・音効・ナレーション収録実技 等

●教材：「チャレンジ！テレビ番組づくり」（読売テレビ作成）

番組づくりの体験や、番組づくりを解説したWEBサイト

WEBサイト「チャレンジ！テレビ番組づくり」では、ゲームでテレビ番組づくりを体験できる。また、「聞いてほしいもん」で、「番組ができるまでの流れ」を解説している。

関西テレビ放送株式会社

関西テレビでは、「番組制作支援」や「出前授業」、「イベント」を通して、青少年を対象としたメディアリテラシー関連活動をおこなっている。



「作り手（生徒）と送り手でメディアリテラシーを学ぶ」番組制作支援

「発掘！あるある大事典Ⅱ」問題からの再生のため、視聴者の情報を受け止める力（メディアリテラシー）と、送り手側の伝達能力を向上させる活動を行っており、その一環で、中高生によるドキュメンタリー番組の制作支援を「中高生のための映像作品制作支援プログラム」として実施している。平成 22 年は、軽音楽系クラブの大会に出場する京都、奈良の 2 つの高校で、同じクラブの生徒が、大会に出場するまでを、半年かけてドキュメンタリーとして制作するのを、ディレクターやカメラ、編集などが支援。

「ニュースを伝えるときに何に気をつけるか」の出前授業



学校からの希望を聞き、そのつど講師が活動方法を考えているが、報道記者がニュースを伝えるときに気をつけていることや、アナウンサーが表現で工夫していることを考える活動などをおこなっている。

- 出前授業の対象：小学校～大学
- 講師：カメラマン、アナウンサー、ディレクター、報道記者
- 時間数：90 分で実施することが多い。

メディアリテラシー公開授業のイベント

メディアリテラシーに関するイベントの開催を、平成 22 年より開始。会場は関西テレビで、平成 22 年は、「ニュース番組のできるまで」や「バラエティ番組のウラ側」などを、報道部や制作部が中心となり講演した。



テレビ大阪株式会社

テレビ大阪では、「社内見学」を通じて、青少年を対象としたメディアリテラシー関連活動をおこなっている。

「ニュースができるまで」も体験できる社内見学



地域貢献及び視聴者サービスとして、「社内見学」をおこなっている。小学生から大学生まで見学できるが、小中学生の見学者が多い。

技術担当者と総務が、基本コースを案内しているが、見学グループの要望に応じて、「ニュースができるまで」などをアレンジして見学コースを作ることもある。

- 対象：原則として「テレビ大阪」近辺の市民
- 受入数：最大 30 名/回
- 見学の基本コース：
中継車、マスター、ニューススタジオ、サブ、スタジオの 5 箇所を、約 1 時間で見学。



株式会社ケーブルテレビ可児

ケーブルテレビ可児では、「番組づくり」や「出前授業」を通して、青少年を対象としたメディアリテラシー関連活動をおこなっている。



「放送の意図」を考える番組づくり

地域貢献のために中学生の職場体験や小学生のスタジオ見学などを受け入れてきたが、パブリックアクセスの観点から、子どもたちに、番組を作ること「放送の意図」を考えてもらうことが大切と考えていた。平成 22 年は、3 日間で職場体験をおこなう中学があったため番組づくりをおこなった。生徒からは、「このように編集されるのか。普段見ているニュースも編集されているんだ」といった感想が聞かれた。



- 対象：中学校（2 年生）
- 講師：カメラマン、ディレクター
- 活動内容：

「学校紹介」をテーマとして約 5 分の番組を作成し、完成した番組はケーブルテレビ可児で放送した。職場体験日前に、ケーブルテレビ可児のスタッフが放課後に学校に行き、職場体験をする生徒に取材・企画について説明し、生徒が企画書を作成。職場体験日に、取材、撮影、編集、ナレーション入れなどをおこなった。

番組体験の出前授業

開局当初から、放送サービスエリアの小学校 5 年を対象として、年に数回、出前授業に取り組んでいる。活動方法は、学校の希望などにより異なるが、カメラマン、アナウンサー、ディレクターのいずれかが講師としてでかけ、カメラ体験や、天気予報原稿を読む体験などを、1 コマでおこなっている。

株式会社姫路シティ FM21（FMゲンキ）

コミュニティ FM の FM ゲンキでは、「番組づくり」や「番組出演」を通して、青少年を対象としたメディアリテラシー関連活動をおこなっている。



「公共放送の役割」を考える番組づくり

FM ゲンキは開局当初から、地域の中学生の職場体験を受け入れ、5 日間かけて、コミュニティ FM の特徴に関する講義や、番組の企画・収録などを体験してもらう活動をおこなっている。制作した番組は、FM ゲンキで放送する。

- 対象：中学校（2 年生）
- 講師：編成制作、ディレクター、パーソナリティ等
- 時間数：5 時間×5 日間
- 活動内容：

公共放送の役割や、コミュニティ FM が免許事業であること、CATV とコミュニティ FM の相違点などについて生徒に説明した後、生徒はスタジオ見学や、番組へのゲスト出演体験、アナウンス体験を実施。FM ゲンキが設定した「学校紹介」などのテーマにより、生徒は番組原稿を作成し、それをもとに番組の収録をおこなっている。



番組制作と番組出演

小学生を対象とした番組制作・出演をおこなっている。小学生は、好きな遊び、学校紹介、将来の夢などについての番組原稿を学校で作成し、FM ゲンキでパーソナリティと共に 30 分の生放送を行う。

東北大学大学院情報科学研究科

東北大学大学院情報科学研究科では、小学校での「出前授業」や、学校教員を対象とした「教育研修」を通して、青少年を対象としたメディアリテラシー関連活動をおこなっている。

「番組は何をどのように、どんなふうに伝えているか」を読み解き、発信する出前授業

平成 18 年より、小学校を対象とした出前授業「番組制作ワークショップ」をおこなっている。平成 22 年は、仙台市内の小学校 5 年生（18 名）を対象として、社会科と総合的な学習時間を組み合わせ、「番組は何をどのように、どんなふうに伝えているか」や、「発信側にたち、映像を使って表現する」ことの授業をおこなった。



<活動方法>

- 社会科「わたしたちの生活と情報」
ニュース番組、新聞、広告などの情報がどのように作られ、わたしたちに送られてきているかを学習。
- 総合的な学習時間（2 時間/回×16 回で実施）
子どもたちは、「テレビ班」「新聞班」「CM班」の3つのグループに分かれ、それぞれのメディアの「情報の伝え方」をテーマに、番組制作をおこなった。

第 1 回	メディアの仕事と役割を学ぼう	第 9 回	番組作成（編集）
第 2 回	撮影の仕方や見方を学ぼう	第 10 回	番組作成（構成、編集）
第 3～4 回	写真・映像を読み、表現してみよう	第 11～14 回	番組作成（編集）
第 5 回	映像の伝え方を学ぼう！、取材の仕方を学ぼう！	第 15 回	クラス発表会
第 6～8 回	番組作成（企画・構成）	第 16 回	ゲストを迎えての発表会

●指導者・ファシリテーター

- ・担任の教諭
- ・東北大学大学院情報科学研究科教員 2 名、大学院生 2 名、技術支援者 1 名

「メディアリテラシーの授業方法を考える」教員のための教育研修

小学校教員を主な対象として、「メディアリテラシー教育の必要性」に関する講演や、メディアリテラシー授業の指導案作成をおこなう「日本・台湾合同ワークショップ 教員のためのメディアリテラシー教育研修」を、平成 23 年 1 月に開催した。



<教育研修での活動概要>

- ・趣旨説明（関本英太郎 東北大学大学院情報科学研究科教員）
- ・台湾のメディアリテラシーについて（台湾政治大学副教授、台湾公共テレビ台プロデューサー）
- ・模擬授業 テレビCM・新聞分析を中心に（台北康寧国小学校教諭、台北北新国小教諭）
- ・指導案の作成（参加者の教員で3グループを編成し、各グループで簡易指導案を作成。各グループの発表） 等



関本英太郎 教授（東北大学大学院情報科学研究科）から一言



小学校での「番組制作ワークショップ」は、「番組を読み解く力」と「表現力（発信力）」を培う目的でおこなっています。番組をつくりながら、たとえば、多くの人があるなかで一人だけを映す場合、何故そうしたのかを考えると「読み解く力」になっていきます。

また、「教育研修」は、メディアリテラシーの授業ができる小学校教員が増えてほしいと思い開催しました。「メディアから送られてくる情報の重要性」や、「メディアの世界と現実の世界の違い」、「生活スタイルや価値観は、メディアからの情報に大きな影響を受けていること」、「メディアとのかかわりで、自分自身について考えること」などを子どもたちが理解できるようにすることをポイントとして、先生方が授業をできるようにしてもらえたらと思います。

このような小学校での出前授業や、教育研修は、今後も続けていくつもりです。

中央大学総合政策学部 松野良一研究室

松野研究室では、小・中学生を対象とした「番組制作活動」を通して、青少年を対象としたメディアリテラシー関連活動をおこなっている。

「番組制作者の視点を獲得する」番組制作活動 — 大学生が小学生の番組制作を支援 —

平成 15 年より、小・中学生による番組制作を松野研究室の学生が支援する「子ども放送局」という活動をおこなっている。子どもたち自身が、番組の企画・撮影・編集を担当することで、「番組制作者の視点」を獲得しメディアリテラシーを養うことが目的。制作した番組は、CATVなどで放送されている。

<活動方法>

- ・講習会（リポーター、ディレクター、カメラマン等の役割、番組の構成、取材方法、カメラの使い方等）
- ・企画（学生と一緒に、子どもたちがインタビュー内容や番組構成などを作成）
- ・撮影（リポーター、ディレクター、カメラマンを子どもが体験）
- ・編集（学生と一緒に子どもが編集）
- ・上映会（保護者、先生、地域の方などを招き、完成した番組を鑑賞）
- ・放送（地元のCATVで放送してもらう）



番組制作はグループでおこない、「町探検」や「学校紹介」をテーマとして、5～10 数分間の番組を制作する。参加した子どもたちからは、「ディレクターによって表現が違うことがわかった」、「BGM やナレーションの声の使い方によって、印象が変わることがわかった」などの感想が寄せられている。

<活動場所と活動回数>

この活動は、毎年、複数の地域で取り組んでいるが、平成 22 年は、東京都と福井県でおこなった。活動回数はそれぞれ異なり、「清瀬こども放送局（6 日間）」、「城南こども放送局（5 日間）」、「昭島こども放送局（2 日間）」、「若狭高浜こども放送局（2 日間）」で実施。

<子どもを支援する学生>

大学 2～4 年の学生が担当している。学生は 1 年のときに、映像制作技術やメディアリテラシーを学習すると同時に、「やらせと演出の相違」などについて実習を含めて理解を深める。2 年から先輩とともに、子どもたちの支援を開始する。学生たちは、子どもたちを支援するために事前に集まり、プロジェクトの目的やスケジュールの確認や、当日の撮影活動のシミュレーションをした後、子どもたちのもとに出かけている。



松野良一教授から一言



テレビ番組は、制作者の意図によって編集されています。テレビ番組の「やらせ」が問題になるとありますが、やらせと演出の違いは、事実をわかりやすく伝える工夫が演出で、事実と違うウソを作り上げて伝えることが「やらせ」と考えればよいでしょう。この違いは、自分で番組を制作してみると、子どもたちでも実感としてわかるようになります。

子どもたちが主体的に現代社会を生きていくためには、メディアを読み解く力とメディアで表現する力が必要です。子どもも、それを支援している学生も、番組制作を通してメディアリテラシーを身につけてもらえたらと思います。この活動をおこなっています。